



南いくた



【学校教育目標】

心豊かで自らよく学び、
たくましく活躍できる子どもの育成

令和8(2026)年9月28日 10月号 川崎市立南生田小学校

「寄り添う気持ち」 校長 羽深 東

私の生まれは東北の秋田です。川崎に来たころは、日常の移動が車に慣れていた自分にとって、電車はなかなか慣れないものでした。特に朝の駅での人混みは大変なストレスでした。そんなある朝、登戸駅のホームで電車から降りようとした際、後ろからもたくさんの人が降りてくる勢いで、列を作って待っている方にぶつかってしまいました。「あっ！」という声しか出ない私に対し、ぶつかった方は迷惑そうな顔一つなく、私を責めるでもなく「大丈夫ですか。」と気遣ってくださり、後ろにいた方からは「ごめんなさい。」という言葉を送ってくださいました。その後で、自分からも「いいえ、こちらこそすみません。」と、やっと返すことができました。私の後ろの方は、さらに後ろからの勢いがあったからで、決してその方が押したことでなかったと思うのです。

見知らぬ相手であっても、とっさに相手の状況を想像し、思いやりのある言葉をかけ合える。この姿に、私は「すごいな。自分も見習わなきゃ。」と、少し恥ずかしいような、自分を戒めたいような気持ちになり、その体験がずっと心に残っています。人混みでのこうした出来事は秋田ではあまり経験しないことでしたが、その後も川崎ではこうした温かい出来事に何度も恵まれました。「川崎っていい街だよ。」これは、私が川崎で住まいを探していた時に乗ったタクシーの運転手さんの言葉です。その時は、「都会で便利だから」だと受け取りましたが、今は「素敵な人がたくさんいる街」という意味で、この街が大好きです。

川崎は、様々な背景や事情を持つ人々がたくさん集まってくる街です。だからこそ、たとえ周りの多くの人と何かが違っていても、自分と異なる立場の人がいても、それが当たり前であり日常なのです。一人一人を尊重し、自然と相手を思いやる温かな土壌がこの街にあふれているのは至極当然なのかもしれません。

学級担任をしていると、クラスの子どもたちの出身地が様々であることが分かります。秋田では生まれも育ちも地元の子供がほとんどでしたが、この川崎では、異なる背景や個性を持つ子供同士が一つの教室で一緒に過ごしています。教室はまさに社会の縮図です。自分とは異なるペースや考え方を持つ様々な友達と関わる中で、初めて分かっていくということがあられると思います。その体験を通じて他者の気持ちを想像し、互いを認め、支え合える大人へと成長していけるのだと思います。子供たちがやがて学校を卒業して社会に出たとき、この共に過ごした学校での経験は、多様な人々と協力して困難を乗り越えていくための大きな力となるはずです。川崎だからこそ学ぶことができた子供たちが、将来の優しい社会の担い手として成長していくことを心から願っています。

令和8年度の前期が終わろうとしています。後期もまた、子供たちみんなと互いを認め合い、助け合い、笑い合う温かな南生田小学校を、保護者や地域の皆様と共に築いていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

芸術鑑賞教室

10月20日(火)、体育館にて芸術鑑賞教室を行います。10:45～1・2・3年生、13:40～4・5・6年生が、「影絵劇団かしの樹」による『あらしのよるに』を鑑賞します。影絵の仕組みがわかる影絵教室と合わせて90分間のプログラムです。

校内の感染症流行の状況によってはマスクをつけての鑑賞となることがありますので、日頃からランドセルの中にマスクを数枚入れておくようご協力をお願いします。

科学作品展・社会科作品展

10月17日(土)

多摩区内の小学校から選ばれた理科や社会科の作品が展示されます。研究テーマ、研究の方法やまとめ方など、とても参考になる作品展です。

科学作品展は東菅小学校、社会科作品展は南菅小学校を会場に行われます。ぜひ、足を運んでいただき、ご覧になってください。

本校からの出品作品、会場への行き方等、詳細については後日案内を配付いたします。



